

## 『石清水物語』第三系統諸伝本に関する研究（一）

宮崎，裕子  
九州大学：専門研究員

<https://doi.org/10.15017/27331>

---

出版情報：文献探究. 50, pp.34-60, 2012-03-31. 文献探究の会  
バージョン：  
権利関係：



# 『石清水物語』第三系統諸伝本に関する研究(一)

宮崎裕子

## 一 はじめに

寛政六年八月十一日

本居宣長

本稿は、『石清水物語』第三系統に属する伝本の中から、本居宣長記念館蔵本・射和文庫蔵本・石水博物館蔵本を選出して作成した校本である。

鎌倉時代の成立と推定される『石清水物語』は、「擬古物語」あるいは「中世王朝物語」と呼ばれるジャンルに属する作り物語であり、近世期以降に書写された二十数本の写本が伝わっている。

これらの伝本は、桑原博史氏の調査によって四系統に分類され(同氏著『中世物語の基礎的研究 資料と史的考察』「風間書房、一九六九年」)、その中で最も伝本数が多い第三系統の写本は、どのような経緯によるのかは不明だが『正三位物語』の名を冠されている。

現在所在が確認されている『石清水物語』第三系統本(『正三位物語』)のほとんどは、

正三位物かたり柴田常昭か本をかりてうつさせたる一かへりよみ  
あはせたとしつ

と記された奥書を持ち、本居宣長が所有していた自筆書入本(本居宣長記念館蔵本)を祖本とするものであることが判明している。

しかしながら、『石清水物語』第三系統本の善本である本居宣長記念館蔵本(以下「宣長本」)は未翻刻のまま、同系統の中で活字化されているのは、宣長門下の国学者小原君雄が所有していた国立国会図書館蔵本(『校註日本文学大系』)と、宣長の門人竹川政信の長男竹齋が創設した射和文庫が所蔵する伝本(『鎌倉時代物語集成』)のみで、この二本はどちらも宣長本の影写本らしい。

そこで、本稿では宣長本を底本に選定してその全文を掲載し、すでに第三系統本の善本と考えられて活字化されている射和文庫蔵本との異同を示した。

また、もう一つの校合本に採用した石水博物館蔵本は、『国書総目録』『古典籍総合目録』も含めて、刊行された目録類に記載されておらず、その存在を広く知られてはいない伝本である。

この石水博物館蔵本は、本居春庭・大平に師事した度会(足代)弘

訓が、宣長の高弟であった青木（向井）茂房所有の本を書写したものである。宣長本と配字配行や字母にかなりの一致が見え、共通誤謬もあることから、祖本は共通のものと考えられるが、他の第三系統本に共通する宣長の奥書がないことから、同系統には珍しく、宣長本を経ずに成立した伝本である可能性が高い。従って、第三系統内の異同を検証するにあたって必要不可欠な伝本と考えられるため、校合本に採用した。なお、竹柏園文庫本『正三位物語』はこの転写本である。

## 二 書誌

### (1) 本居宣長記念館蔵本

袋綴。二冊。白群色布目模様表紙。二七・二×一九・〇糎。一面一  
二行。墨付（上）七四丁・（下）六二丁。外題（宣長自筆題簽）「正  
三位物かたり上（下）」。内題無。蔵書印「鈴屋之印」。柱に丁付け。  
【奥書】正三位物かたり柴田常昭か本をかりてうつつさせたる一かへ  
りよみあはせたくしつ

寛政六年八月十一日

本居宣長

【参考】重要文化財（平成十三年指定）

### (2) 射和文庫蔵本

袋綴。二冊。錆浅葱色布目表紙。二七・五×一九・二糎。一面一二  
行。墨付（上）七四丁・（下）六二丁。外題（打付書）「正三位物語  
上（下）」。内題無。小口「正三位物語」。

【奥書】正三位物かたり柴田常昭か本をかりてうつつさせたる一かへ  
りよみあはせたくしつ

寛政六年八月十一日  
本居宣長  
【参考】上册表紙に「本居宣長所蔵本 奥に自筆読合の書云々」とあり。

### (3) 石水博物館蔵本

袋綴。二冊。薄墨色金砂子表紙。二七・九×一九・六糎。一面一二  
行。墨付（上）七四丁・（下）六二丁。外題「正三位物語上（下）」。  
内題無。小口「正三位物語上（下）」。蔵書印「葎々齋文庫記」「千  
歳文庫（門外不出）」。柱に丁付け。

【奥書】朱書

（上册）文化十二年髓柄の里をさ向井茂房か本をかりて人にう  
つしとらせ同十三年の正月福井末貞神主とよみ了へて  
写し誤れる所々を直したり

正五位下度会弘訓

（下册）髓柄のさとをさ向井茂房の本をかりて人にうつつさせ市  
川茂樹もとの本にてよみ了へたり但し四十丁より四十  
三丁のほとは杉村光基それよりすゑは井村ふたりにあ  
つらへてよみくらへさせたり

文化十三年八月 正五位下弘訓（花押）

【参考】

①上册の表表紙裏の見返しに、二四項目の索引を記す。

②上册巻頭の遊紙に、次の注記がある。

○源氏物かたりは絵合巻にまづ物かたりの出きおやなるだけ  
とりの翁にうつほのとしかけをあはせてあらそふ云々いせ  
物かたりに正三位をあはせてまたさためやらす

○玉のをぐし世ある物語に云々といへり此物語題号に正三位とあれとも此名はうけかたし

○茂房云此物かたりのこと山口のしをりに考へしるしおきぬ

### 三 本文

#### 凡例

- 一 本居宣長記念館所蔵の本居宣長自筆書入本を底本とした。
- 一 各面の配字配行をできる限り忠実に再現するため、各行末にカギ括弧を付けて、次のように示した。  
とのは大かたもさのみかくよをしりてもことしけき  
心ちするをいのち
- 一 底本の体裁を再現するため、和歌の冒頭は二字下げて記した。
- 一 漢字は、旧字体を現行の字体に改めた。
- 一 見消は「ㄱ」で示した。
- 一 補入を示す記号「○」は本文中に記載し、補われた語句を傍書した。
- 一 見消・補入記号の有無、反復記号「／＼」と「ゝ」との違い、不審箇所に関する傍書の「か」「カ」「歟」の相違などは、校異に掲げなかった。
- 一 濁点については、三本ともに、統一して付されたものではなく、後人の書き入れである可能性があるため、底本の翻字にも、校異にも記さなかった。

一 校異欄に示した略号は次の通り。

射 射和文庫蔵本  
石 石水博物館蔵本

#### 〈上冊〉

- 1 この頃の左大臣ときこゆるは関白殿の御おとうとにこそお
- 2 はすれ御身のさえなどもかしこく何こともあにの殿にはた
- 3 ちまさり給へれはみかともいみしくおもきものに思ひ聞え給
- 4 へり北方はせん代の女の君四の宮カになんおはすれはいとやんこと
- 5 なき御身なれといいたう物えんしをし給ふ御心さか
- 6 なくそおはしける宰相の君とて兵衛督にてうせにしかむす
- 7 め心さまなどゆへありてみるめもなへてにはあらさりけ
- 8 るを御らんしはなたすや有けんたゝならず成にけるを
- 9 この女宮いとゝ心つきなきことにおほしてさま／＼はしたなめ
- 10 たえしのふへくもあらぬに思ひわつらひてむつましく行かふ
- 11 ところなどもなくおやたちもうちつゝきうせにしかはむけに
- 12 よるへなき人にてにしの京といふ所にめとなるも【一才】
- 1 のゝ家に行かくれにけれととのゝ御こゝろさしふかきこと
- 2 なれはあはれにのみおほおされてこゝろくるし○きとさへ
- 3 御らんししりにければそこにもおとつれのひてわたり
- 4 などし給けるをやすからぬことにの給てかのにしの
- 5 京をもおとろ／＼しくいましめられければすへきかたなく
- 6 かなしきまゝにあけくれはねをのみなきて過るほとに
- 7 あねなる人ひたちのかみのめにてなんありけるかおりし

8 ものほりてあるいとうれしくて世のうきときのかくれか  
9 ○もやとたつねよりたればかれもみやこのうちにはまたし  
10 るへもなくむかしなからのすみかもあつた○にしたつき  
11 なさにこの宰相の君はかりをたのみて道のはてなる  
12 かことをもかたりあはせんとおもひたちけるにかく殿【1ウ】  
1 のうちをさへあくかれて立いる雲の跡なきもの思ひに  
2 しつまむこともあちきなきわさなめれば何かなか  
3 同じ雲井ならても心み給へかしてかのひたちへいさ  
4 なひければけにかくのみはしたなめられはまさりて  
5 うきめもみるへかめる世のうきよりはわか身一をなきに  
6 なしても宮こにあとたえなむも心やすかりぬへく  
7 思ひみたるゝにはまつたいらかにもいて物し給はゝはるか  
8 なる世界にていかに成給はむすらむなとしもかゝる  
9 うき身にやとるへく結びをきけんなど思ひみたるれと  
10 とまりてもはかしくしかるへきならねはくたりにけりおとゝは  
11 人しれすあはれなるものにおほしてとかくたつねられ  
12 けれどすへて行かたもしらす成にければ覺し歎く【2オ】  
1 ことかきりなし女宮の御はらにはおとこにてふたり  
2 南シものし給ける兄君は二位の中將にて御コゝるさま  
3 もいときらしく今よりおよすけよのかためと成  
4 ぬへき山くちにて御かたちけたかく物しくしけに  
5 さまことにそみえ給ふおとゝの君ははるかにへたゝりて  
6 心もとなきほどにいてき給にければまたむけに  
7 いはけなき程にて御かたちうつくしく此世の人とも  
8 みえぬまておはすれはとのうへいみしうかなしきものに

9 思ひ聞え給けるひめ君のおはせぬことをいとさうしくしき  
10 ことにおほしてもろこしよりかしこき相人よくしりたる  
11 かわたりけるに考へさせられければ御子三人おはしますへし  
12 おとこ二人いつれもめてたくておほやけの御うしろみ【2ウ】  
1 となり給へし女はをとりはらにていてものし給へきか  
2 上なきくらゐにおよひ給なんと申たりければおほし  
3 合するかたにやとあはれに行す多しらまほしく覺され  
4 けり御兄の関白殿はひめ君二人おとこ三人もちちま  
5 つり給ひければいとあらまほしく大君は当代のきさきに  
6 春宮の御母に物し給大らう君大將にて右大臣殿の  
7 御むこにておはすそのつき衛門のかみその次はひめ  
8 君御かたちとなたかくことにかしつき聞え給へりわらは  
9 にておはする君そなかなしくしたてまつり給へりける  
10 よろつあかぬことなき御さま也まことや彼カひたちには光るやう  
11 成女にてことなくむまれ給ひにけれとはゝ君はあまりに  
12 物をも思ひつくおれける名残にや又さましく心こころにかけ【3オ】  
1 なることをのみうへの覺しけるつもりにやいとよはく成  
2 てたのみかたかりけるかついにはかなく成にけりうみをき  
3 たてまつりたるこめ君のゆゝしきまでうつくしくまき  
4 へきかたなくかたしけなき御さまに常陸のうへはいみし  
5 くいかにしたてまつるへしとおほえす大かた子といふ物も  
6 なかりければしかるへくわかはらにやとるへくてかゝる国の  
7 はてにおはすへき契こそは物し給ひけめとてちある  
8 人の賤しからぬをたつねてつけたてまつりてかきりなく  
9 かしつきあつかひたてまつりけるこのひたちももの

10 ねさしは御門の御すちにて何かしの親王とか申ける「  
 11 かいかなるみたれにかありけんあつまへなかさされてその「  
 12 すゑ／＼あまたに成にければこととの身をもカかへてあ」【3ウ】  
 1 やしきたみのふるまひをして弓矢とるわさをしたるに「  
 2 つきくしもて行程にかゝるものゝふにそ成さたまり「  
 3 たりけるくえんしあまた国のうちにも聞ゆれとこ「  
 4 れはむげにまちかきなかれになむ有ける子なき事「  
 5 を思ひ歎きけれども甲斐なくありふるにこの姫ヒメ「  
 6 きみのおほえなくていき給へるをおなくはとおとこに「  
 7 てもおはせましかは一すちにかたしけなくとも我子に「  
 8 したてまつりてましくちおしけれとみるめのうつく「  
 9 しさによるつ忘てかしつきはくゝみ聞えけりとし月「  
 10 はかなくすきて五五ツはかりにも成給ひぬ日にそへて「  
 11 めてたくのみおい出給をいたはしくかたしけなく朝夕の「  
 12 いとなみにはこの御ことをそしける左大臣殿のわか」【4オ】  
 1 君十一に成給て元服し給て殿上し給侍従と聞ゆ「  
 2 いとゝあけまさりのうつくしさいふかきりなくておほ「  
 3 ろけの人見えにくけなるけしきそしたまへるみかと「  
 4 よりはしめたてまつりていみしき世のいうそくと「  
 5 思しよろこひたりとのゝわか君もおなく元服して「  
 6 これもかきりなき人の御さまなりとり／＼におとらぬ光「  
 7 にそ物し給いま二はかりのこのかみにて少将とぞ聞ゆる「  
 8 中のひめ君はいとさかりにとゝのひてあたらしき御「  
 9 さまなるをたゝ今は中宮すきまなくてさふらひ給に「  
 10 おとゝにてきしろい給へき御事にもあらず春宮はいまた「

11 おさなくおはしませはくちをしくてたゝ人にておはせん「  
 12 はほいなるへけれと今の代には左大臣殿の大らう」【4ウ】  
 1 君中將ならては誰かあらむと覚しめくらして御けしき「  
 2 とり給へはいとよきことゝたれ／＼もおほしてうけひき聞え給ふ「  
 3 八月はかりとさためていそぎ給はなれぬ御中にあかぬこと「  
 4 あらんは中／＼よその御事よりもはつかしかりぬへくお「  
 5 ほさるればてをつくしてみち／＼のものともよろつ「  
 6 をくれたることなくとていそかせ給ふ七月七日のほし合「  
 7 御らんせらるゝついでにうへの御あそひ有てわか君たち「  
 8 残なくまいり給左のおとゝも御子二人ひきくしてまい「  
 9 り給ふ物／＼しくあさやかにてさかりにみえ給こととも「  
 10 はしまりて二位の中將ひわ衛門督わこん右のおとゝ「  
 11 の宰相中將さうのこと兵部卿の源中將ひち「  
 12 りき藏人少將さうのふえ殿の少将よこ笛いつれと」【5オ】  
 1 なくおもしろきものゝねともふけ行まゝにすみの「  
 2 ほりてえんなるよ夜のけしきなるさ左の大殿の侍従のき「  
 3 み声はいとうつくしくて我かとうたひ給へるすくれ「  
 4 ておもしろくみゝおとろかし給うへもことにもて「  
 5 はやさせ給ており／＼うちそへさせ給笛の音の「  
 6 物よりことに雲のうへまでもみゝとゝむる人もやとゆゝし「  
 7 くそ聞ゆるとのきんたちこのきんたちふたりの御しわさをめてぬ人「  
 8 なくそ有ける御かた／＼の女はういまより心つくしのくさ「  
 9 はひにいひあへるも心もとなけにおかしかめりまたきに「  
 10 春の少将秋の侍従とつけたてまつりてとり／＼にさため「

- 11 かねたる山くち也ことはてゝみなまかて給ぬかくて八月に
- 12 成ぬれば殿のひめ君の御いそきかきりなくわらは下つかへ【5ウ】
- 1 など中宮の御まいりにおとらすかきりなくつくして
- 2 かよはせてまつり給へり所あらはしのほとなど思ひ
- 3 やるへし御かたちよしあり心にきけし御くしもさか
- 4 りにうつくしうおはすれば御心さし浅からすたれもくう
- 5 れしくおほされたりとし月のつもるにつけてもとのは
- 6 あとなく成し人のことのみ御ころにはなるゝおりなく
- 7 いくくにいかにしてあるらんだゝならぬ○ともたいらかならはを
- 8 となひぬらんとのみおほしわたれといふせき月日のみへたゝり
- 9 てあかしくらし給つかさめしありてとのゝ大将内大臣
- 10 に成給衛門督中納言かけ給左のおとゝの二位の中將
- 11 中納言にあかりおとゝの秋の君は中将に成春の少將お
- 12 なしく中将に成てさらぬ人くもよろこひとも有けり【6オ】
- 1 ひたちの姫君はおとなひ給まゝにたとへんかたなくうつ
- 2 くしけにてもものゝ心しり給ふまゝに御身のありさまを
- 3 あはれにおほししりてかゝるせかいにしもむまれ出けんとのみ
- 4 御ころのうちになけかしく覚え給ふかゝるひなひたる中に
- 5 おひ出給へれと何ことにつけてもありかたくめも及はずおは
- 6 すれはかくあやしき所に過し給ふもかたしけなくいたは
- 7 しく思ひ聞ゆれとさりとて都にのほせてまつりてもいか成
- 8 へしとおほえす今さりとつるには親にもしられたてまつり
- 9 給ひてんなどたのみ過すにひたち子のなきことを歎けるにこのはら
- 10 にはあらてかよふところ成けるにいみしくおかしけなるおのこゝを
- 11 まうけたりければ限なくよろこひ給なからめさましと思ふとし
- 12 はしはゝかりていはけなきほとをはかくし過しつれといつ【6ウ】
- 1 をいつとさてのみ有へきならねは中く心うつくしういひも
- 2 つけんと思ひてしかく思かけす出きたりし物あれとお
- 3 ほさんことをはゝかりて今まで聞えざりつれとみすてかたき
- 4 もカことのなれはなんあとつくへきものなくてはたかためあし
- 5 かりぬへくゆみやとるものゝならひととしてかためなくては
- 6 なきわさなれば只わか子と思して哀にしたまへなとかた
- 7 らひていふよしもなくおかしけにうつくしけなる二ツは
- 8 かりの子を呼出たればあやに覚えてこれ程になるまで
- 9 みせ給はさりける心のほとこそとらみて我かゝる人を
- 10 もちたらんにたにかはかりなからむはおろかに思ふましき
- 11 をましていかでかと涙をさへおとして思ひよろこひたるを
- 12 かみも思ふやうにうれしく覚えて時ゝかよはしてそそた【7オ】
- 1 てける此女はうもとよりあてなる人にて心はへなど
- 2 もよかりければたゝ我子のやうになつかしくしていと
- 3 おしみければこの子もよく思ひつきて常に通けり
- 4 かしまといふ所に此子のはゝはずみければちこをかしまの
- 5 君とつけてそよひける今よりけしきことにみえてまなこ
- 6 ゐなどのはつかしけにあひ行つきてみるに多ましくそゝろ
- 7 にいとおしきましましたりひたちにもよくかよひてあらかふ
- 8 へくもみえぬ物からさまことにきよなるちこのさまなれば
- 9 ゆゝしくあやうきまてに思ひて仏神にもちかつけ
- 10 たてまつらんことをせめてのいたはしさに思ひよりてかまくら
- 11 といふ所にわか宮とおはしますそこのへたうのたう
- 12 とき人にておはしけるをかたらひてしはしおとこになさて【7ウ】

1 御弟子にたてまつらんといひければいとうれしきことに思  
 2 ていますこしもおとなひ給はゝわたしたてまつり給へ  
 3 とてたいめんしそめにければみるめのめてたきにいと  
 4 心に入てそおほえけるかくて兵部卿にかしつき給御む  
 5 すめ春宮にたてまつらんとおほしまうけてこなたかな  
 6 たよりいひわたり給人／＼あれと聞入給はず秋の  
 7 中将に思ふ心なきにしもあらねとこの折ふしとけ  
 8 しきはみ給五月五日五月雨つねよりもはれまなき  
 9 にまれ／＼日影まちえてめつらしき所ゝの光なるに  
 10 内よりまかて給とてわた殿のひかしさまをあゆみ給ふに  
 11 源少将に行あひてかれもいつつるカきにやとみゆればさはも  
 12 ろともにとてうちくし給へり道すからみたれたるむつこと  
 【8才】  
 1 ともしひかはしてもうとの君の御ことほのめかし給へは  
 2 けにならへてみんはしもみるかひあらんをとまもられ  
 3 給へと宮つかへのほいふかく思したればことすくなにては  
 4 なれ給ぬその夕暮は少将のもとに文あり心に  
 5 似たるねはいかなるぬまにもとめかねて侍てなとあり  
 6 中なる文はしろきうすやうにちいさくて  
 7 思ひつゝいはかきぬまに袖ぬれてひけるあやめのね  
 8 のみなかるゝみこもりはくるしうとありみしきささうふ  
 9 につけたりかきさまなどのめなれぬさまなるをひめ君の  
 10 御かたに宮おはしますほと成に文とりいてたればかれは  
 11 いつくよりのあたことにかくた／＼しからんきはのしるへ  
 12 なこのまれそとの給へはしか／＼の文とてうちをき給へる  
 【8ウ】  
 1 とりて御らんしていと見所ありてもかきたるかなあまりまめ

2 たちたるとのみもてさはかるなるをかゝるゝるもありける  
 3 をと御心おこりもこよなけ也ひるけなから御前にうちを  
 4 かれたればひめ君は御かほうつろひてからなてしこの  
 5 あやのえならぬにあをくちはのこうちきゝ給て御くし  
 6 はいるなるかたによりてこまやかにあてにきよらなるか  
 7 御たけに一尺はかりあまりたらんとみゆあてにこめかし  
 8 うらうたけにそひやかなるさまし給へりこの返しはまつ  
 9 きこえんとてみやそかき給ふ  
 10 沼ことにけふは引なるあやめ草なへての袖もしほれ  
 11 やはせぬおとろかすもとあり少将のもかきくしてあれと  
 12 みつからのならねはずさましかりけるとのゝ中将も  
 【9才】  
 1 御めのとの宰相の君か文の中に  
 2 ぬまことに袖こそぬるれあやめ草みこもりにのみ  
 3 恋わたるとてけふさへや○あれとさはかしければ御らんさせ  
 4 すこの春秋の君たち世のいうそくにいわれ給へはむすめかし  
 5 つく人／＼我も／＼とけしきとり給へといかなるにかあらむ聞  
 6 すくしてのみいづれもおはすれはくちをしかる人ゝおほし  
 7 おほるけならんわたりをはかくつらはしと思ひあかり給つゝ  
 8 いかて人の御かたちをもみあつめて心にとまることあらは御門の御  
 9 むすめ成ともなか得さらんと心おこりのせらるゝもあまりなる  
 10 心つかひ也中宮の御はらの女一宮かきりなくかしつき聞えさせ給ふ  
 11 ことはりの御身なればたれかはかけ／＼しきすちに思ひ聞えむれい  
 12 けいてんの女御と聞えし御はらの女二宮をうへはいとかなしき物に  
 【9ウ】  
 1 したてまつらせ給けるか御はゝかたなともかすかにはか／＼しき



2 御うしろみなともなくてうしろめたかるへきをこの人／＼にや  
3 いひつけましと思しめしよるおり／＼あれとつかさなとも今は  
4 物けなきほとなれば今すこし人はきてあらんおりと  
5 おほされけりふたつをならへてはなを秋の中将はしつかにたの  
6 もしき所みゆる人さまなれば御心よせ増るいまかたつ方は何事も  
7 はなやかにいまめかしく色なるかたにすゝみてにほひおほく  
8 さかりの花の心ちすかれはなまめかしくよしあり心に  
9 くゝそこはかとなく心はつかしきさまはこと也まことに秋の  
10 夕とおほえたる何事もとり／＼にいとみかはしてはかなき  
11 草木につけてもめされたらんことなのみ思したり  
12 御おやたちかなしきことにし給へるさまことわり成あまた物し

【10才】

1 給へはをのつからまきるゝおりも有へきをたゝおなし  
2 おとこにてふたりおはすれはいつれもわかたかるへけ  
3 れとあに君はあまりに御としわかくて出物し給し  
4 かははらからなどのやうに御子ながらもはつかしくうちみ  
5 たれてもあらぬ御あはひ也うへの御心さしはとし月にそ  
6 へてよきまた人もあらしとのみおほしたるをちゝうへも  
7 心やすくおほし女の御かたさまにもかひありとよろこひ  
8 たり中宮もあまたの御中にすくれて時めき給へはすへ  
9 て御むすめたちさいわひおはするとのゝうちなり女君  
10 たちのかく思ふやうにおはするをみ給にもさのおほいと  
11 のはこらやましうへもくちをしく思してうへの御お  
12 ちの按察使の大納言にてうせ給し御むすめいとこゝろ【10ウ】

1 くるしけにてふる郷にとゝまり給へるを思ひてゝむかへ  
2 とり給てけり御かたちなどすくれてはあらねとけしうは  
3 あらさりけり御かたは東のたいにすませたてまつり給御心  
4 のかきりかしつき聞えて内にもまいらせたてまつりてんの  
5 御心つかひに女はうわらはしもつかへなとめやすきほど  
6 なるをえりいてゝ奉り給へは御むすめならんにもおとるま  
7 しみゆ中將の君はかゝる事あれは心つくるひせられ  
8 て御かたちいかならんとゆかしき心そゝひけるはゝ宮の  
9 御かたへまいり給へれはいつくよりものし給へるそしはし  
10 も見たてまつらぬはくるしうとて涙をうけてさらぬ別のな  
11 からむ程はめかれなくと聞え給ふついでにおほえなき御い  
12 もうとのいてきたるはむつましく思ひかはしおほせ女はら  
1 からといふものあるこそうきふしもうれしきこともうち  
2 かたらひてすすすならひなるをさまことなくてたか御ため  
3 もくちをしきおなしことゝおほせなどの給へはいとうれし  
4 きことにも侍かなとのゝきんたちのうらやましく侍にと申給て  
5 やかてそなたさまにたちより給てわたとのゝつまとのかく  
6 れにしはし立聞給わかき声にてひさしく御五こそ  
7 うたせ給はねなどいへは大宮の御かたよりまいもたる中納言  
8 君といふわかうとの声にてまいり心え侍らんなどいひて  
9 五はんとりてまいるをとすやかてつま戸よりとをりてやを  
10 らも給へは中さうしはたてゝこゝもとは人もなしみゆへき処  
11 やあるともとめ給へはひきてのもとにいさゝかなるあなの  
12 あるうれしくてみ給へは木丁もをしやられていとよく【11ウ】

【11才】

1 みゆ廿はかりにやあらんとみえてほこりにおほきやかなるカ  
 2 人のしろ／＼心クカちよけなるさましてひたひすこしはれ  
 3 たる心ちすきよけ也とはみえなからいますこしらうたき  
 4 ところをあらせはやとみゆかみのかゝれるほとはしもけし  
 5 うはあらずみゆけちかきかきりの人／＼さふらひてけん  
 6 そし物いひなとすれば君もほつかましけならすはなや  
 7 かにうちハはらひなとしてみちのこきひとへくれなぬのうち  
 8 たるをき給へるひきあはせしとけなくむねのほとさながら  
 9 みえてくるきにはへてけさやかにしろくみゆるほとはこの  
 10 もしともいひつへけれと袖につゝまむとまてはおほえぬも  
 11 心やすけ也つく／＼とみあたり給へともさすか人やみつけんト  
 12 そらおそろしくてたちのき給ていまおはするやうにてそト 【12才】  
 1 ちこはつくり給へはおとろきたるけしきともにてこもうち  
 2 さしさまよひたる木丁引なをしなとしてしとねさし  
 3 いてたれはあさやかなるなをしにおりものゝさしぬき  
 4 たをやかにきなしてあたりも処せきまてにほひおほく  
 5 ものよりてうにみえ給ふにはおほろけならん人はさしむかい  
 6 にくゝはつかしけなるにこうちつる中納言君みすの前はかたし  
 7 けなくやと聞ユれは何かはわたるとはかりたにとかめられたてま  
 8 つらぬよし野河なれは浅きせにのみ成侍てみすのまへと今た  
 9 にゆるさせ給はてやとてひきかつき給へはわひしとおほしたれ  
 10 はみしかき木丁引へたてゝ浅せしら浪は御こゝろつかからにや  
 11 聞え侍らん今よりこそはふかきかたにもなとされたるわか人  
 12 にてきこえかはずに日も暮にければいとゝえんなるたそ 【12ウ】

1 かれにちかやかにみよりてまめやかにかはらぬいもせとのみ  
 2 たのみ聞えさするをむけにうと／＼しくもてなさせ給なん  
 3 いみしう恨めしきとの給へはこゝに思ひ聞ゆるさまはまさ  
 4 りてやとしたとなるやうにの給へはますまてはいかゝとひけ  
 5 せられ侍をひとしからんのみそかひ有へきわさなると  
 6 いひかはし給ふに御いらへなとつゝましけならすおほとか  
 7 にもあらぬは心おとりせらるゝくらうなれば又もとてたち  
 8 給ぬわか御かたにおはしてうちやすみ給ひてもなを思ふやう  
 9 なる世はかたきわさ也けりこゝら人のかたちこゝろはへ  
 10 みあつむるに心とまるはかりの人はえなんみいてぬかな名た  
 11 かく聞え給宮たちいかてみたてまつるへからむこのありつる  
 12 君をけしうはあらずと聞えしかはさるかたに心やすきよるへ 【13才】  
 1 にもなとかねては心ときめのきせられしかとも玉山カの井の水  
 2 はかひなく思ひつゝけられ給としかへりぬ春のつかさめしに  
 3 あにの中納言左大将になり給ぬ中将も三位かけ給へり  
 4 殿の中將二位の中將ときこゆ大臣と内大臣と右にわた  
 5 りなとしてさらぬ君たちもしたひのまゝになりほり  
 6 給いはけなかりし人ゝさま／＼にしつまりとしつもりさかり  
 7 過るまでに成行を御らんせらるゝおとゝは人しれすむかし  
 8 の事わするゝ世なく覚さるれととふへき草のはらもなき  
 9 まゝにかひなくてとしおほくつもりにけりやよひのはし  
 10 めつかた三位の中將はゝ宮の御せうとに宮の僧正と聞る  
 11 人いとたうとくてうちの三室といふ所におはするか  
 12 くもんなどならはんとて二三日こもりおはしけるか帰給ふ 【13ウ】

1 みちにこわたといふ処を過給ふに山きはゝかすみわた  
 2 りて行ききもみえずたえ／＼なるについちところ／＼  
 3 くずれて木たちくら／＼ときは木などあまたみゆる中に  
 4 八重桜のいみしく盛におもしろき木すゑはかりみや  
 5 らるゝに御めとまりていつくならんと御ともものに聞給へは  
 6 たしかにしりたるものなくてそのわたりのものに尋れは  
 7 こ兵衛督のれうし給所なれとぬしおはせず成ていなか  
 8 人の時ゝ住侍と申ければ扱はつゝましきわたりにはあら  
 9 さりけり入てみむとの給て馬よりおりて入給へと人ある  
 10 かたとをくて心やすくこゝかしこのそきありき給へは  
 11 新殿のにしおもてなるへしむかし覚えてやり水の  
 12 なかれゆへ聞てくれ竹うへわたしてうのはな咲へき【14才】  
 1 かきねなど山里めきたるかうし二まはかり明たるにちい  
 2 さきわらはのおかしけなる山ふきのあこめにふたあゐのかさ  
 3 みきて花あるかたへさし出てさはかり吹つる夜の風に  
 4 残りなくやと思ひつるにちらさりけるよとてゑみたるけ  
 5 しきゐなかひたるさまならすいとめやすしたてしとみ  
 6 のもとにたゝひとりたちて聞給へはありつるわらはの声  
 7 にて花こそけさは盛におもしろく侍れこのみずをあけ  
 8 て御らんせよかしといふなればをとなしき声のよしつきた  
 9 るにけにこなたは人みるましきを風よりさきに御らん  
 10 せよとてみずをあくれはうれしくて猶よくかくれて見給へは  
 11 人おほからて五十はかりにやあらんとみゆるあまのよしつ  
 12 きてきよけなるかすこし出させ給て御らんせよみる人も【14ウ】

1 侍らしとそゝのかせはあらはにもやとてゑさり出たる人を  
 2 みれば廿に二三やたらさらんとみえたるかさくらのほそな  
 3 かにゑひそめのこうちきゝてようたいかしらつきよりは  
 4 しめてめもかゝやくはかりあれはめてたの人やとみえてらう  
 5 たくうつくしき事限なし咲みたれたる花の匂もけをと  
 6 りて浅ましきまてまもられ給ふにまつ御むねはふたか  
 7 りて世にはかゝる人もあることにこそ有けれこゝらみし  
 8 人かたはしをよふへきこそなかりけれなにはかりの人ならんと  
 9 つく／＼とまもり給にわかき女はうの声あまたしてこなた  
 10 さまへいつれはみやつけられむとおほしなからさはれみけりとしら  
 11 れていひよるたよりにもなとおほす程にいぬのはしり出て  
 12 たかやかにおほみ出たるにおとろきてみすうちをろし【15才】  
 1 つあかすおほしていつへき心ちもせず持仏堂のかたさまに  
 2 あゆみよりてすのこにしりかけてなかもおほするに年  
 3 七十はかりなるおきなのかしらのゆきしろさかはゝきといふ  
 4 物して庭をきよむるありあはれのとものみやつこやと  
 5 見給うちまねき給へは覚なく思へるけしきながらあゆみよ  
 6 りたるに愛にはいかなる人のすみ給ふそととひ給へはこ  
 7 ひたちのかみの殿のこけ御せんのおはするにはかうの殿は  
 8 おとゝしのころうせさせ給ふてのちこゝにすみ給といへは  
 9 むすめやおはするとの給へはしか侍り御子ふたりおはするか  
 10 おとはくにゝとまりてひめ君はこれになんと残なくいひつゝけ  
 11 れはまことにいなか人といひつるはたかはさりけりさらにさかりの  
 12 きはともおほえすめも及はすけたかくよしありつるさまはいか  
 【15ウ】

1 なるあまの子なりと聞とも心をとりますへきこゝちせず人し」  
2 けきけしきもなきは心やすく御めのとこのちふの大夫に」  
3 硯めてふところかみのしみふかきをいさゝかやりて」  
4 朝霞ほのかに花の色みれは心そらなる春の旅人」  
5 いゑちはいとゝとかきてありつる翁にこれひめ君の御か」  
6 たへとてとらすればたれ人のまいらせ給とか申へきとさかしく」  
7 きこゆれはみなしり給ひたる也たゝたてまつれとの給へはもちて」  
8 入てしか／＼の給ふよしいひてふみとりいてたれはいとゝあさ」  
9 ましくなにしに明つらんおほえなきほにもとあきれ」  
10 てめをみかはしてあれと御かへりなからんもあいなければし」  
11 ろきうすやうにあま君」  
12 朝またきそことも何かみえわかむ霞へたつるはなの【16才】  
1 木すゑはと計ことそきたれとてなとゆへつきて心にくき」  
2 に今よりかた／＼にとて出給ぬ道すからも心にかゝりてお」  
3 かけにのみおほえて世はかく思ひの外にもありけるかなたち」  
4 いらさらましかはかゝることをみつてんやとうれしくもなけ」  
5 かしくも思ひみたれ給へりひたちかむすめとはいふへくもあらず」  
6 けたかくなまめかしさはいかなるにかあらんなどこと／＼なく」  
7 心にはなれすそおほゆ殿におはしつきてみやの御かたへ參給へ」  
8 れは二三日のへたても久しき心ちしてめつらしくおほし」  
9 たり寺のことなとかたり給おとゝもこなたにおはするほど」  
10 なれはほうもんのしたひのさまなどこまやかにかたり申給てわか」  
11 御かたにおはしてうちやすみてもありつる佛は身をはなれす」  
12 恋しう猶いかなる人の物いみなとやうのことにたち忍ひて【16ウ】  
1 やあるらむあま君も我子のけしきならずかしこまりをき」

2 たるさまにみえつるをなとさま／＼思ひみたれ給ふ猶文やりて」  
3 けしきもきかんなとおほすその日は暮ぬ宵過るほとに」  
4 はゝ宮御むねをにはかにせきあけてくるしうし給ふとて」  
5 人まいりたるにおとるきて参てみたてまつり給へはいとくるし」  
6 けにておきふしわつらひ給ふ誰もおほしきはわきて御す」  
7 きやうなとせさせ給へとおこたることなくてつぎの日にも成」  
8 ぬれは御いのり何くれと立さはきてかしこへもおとつれ給は」  
9 す御心ちのくるしきにつけても御かたはらさらす大将もろともに」  
10 あつかひ聞え給二三日たゝ同じさまにて物なとも露御らんし」  
11 いれすものゝけたちてみえ給へは僧めしてかちまいりさはく」  
12 中にも中将は人しれす心にかゝることあれはなかめをのみし【17才】  
1 給いさゝかなるひまに文かきてつかはすうすはなたのからのし」  
2 きしのえならぬに」  
3 花ゆへに恋しき人の佛をさそふたよりの春風も哉」  
4 心もそらにとありよりたゝといふ隨身かしこに行て文とり」  
5 いてたれはかくの給はたれと聞る人そとはすれは只今たし」  
6 かにあかし侍らすとも今かくれはつへき御事ならずといらふ」  
7 れはむけに行衛しらはうきたるわさかなといひながら」  
8 とり入てみれはいみしくめてたくてかきさまなどなへてのきはと」  
9 みえね御らんせさせ給へとてひろけなからうちをきたれは御」  
10 かほの色うつりてみもいれ給はすたれとたにしらてうはのそら」  
11 なる心ちすれと一日はつかにみ聞えける人ともめもおよはず」  
12 きよらにこそみえ給しかなといひあひたれはあへなん文計【17ウ】  
1 のかよひに何はかりかとてれいのあま君」  
2 春風は花のあたりを分てふけさそふはかりの匂ならぬに」

3 風いとふなのとかきたり君は心もとなくまち給に御返」  
 4 あれはいとうれしくてみ給にれいのてなれはくちをしけれど」  
 5 かくいひしろふをたのもしくおほされたりこわたにはかくおと  
 6 つれ給人を誰としらぬはいふせけれどけしきことなる人」  
 7 からと聞にさりともむけなる人にはあらしかしくいひか」  
 8 はさんほとにさるへきやうにもきゝなしてねんころ成こゝろ」  
 9 さしならはゆるしもしたてまつりてんあたら御身をかゝる」  
 10 身一をたのみてけふともしらぬよにうち捨てたてまつりなは」  
 11 いかなるさまにてさすらへ給はんなど思ふもかなしくて此をと」  
 12 つれ給人をもさしはなたさりけりひたちにはかしまといひ 【18才】  
 1 し子はわらはにてしはしわか宮のへたうの許にをきてかく」  
 2 もんなどせさせけるか我身やまひをもく成ければおとこに」  
 3 なしてくにのこともいひあつてこのまゝはゝのためなど心に」  
 4 入て思ひへたつる事なくたのみかはしたればゆめをろかに」  
 5 思ふなとかれにもいひをきてかくれにければあまに成てたゝ」  
 6 さなからくにも住はつへきをこのひめ君のいはけなきほとこそ」  
 7 とてもかくても過し給しかおとなひ給まゝにちきりとなる御様」  
 8 をあたらしく心くるしきことに思ひてみやこの内にてはをのつから」  
 9 さるへきたよりもやなど思ひたちていみのほど過けるまゝに」  
 10 のほりてこわたには住けるなるへしこのあま君は父の兵衛督」  
 11 ひわの上手成けるを伝てけるくにはてにしつみなからゆゝ」  
 12 しくひきつたへたりけるをこの君におしへ聞ゆれば限なく 【18ウ】  
 1 ひきとり給へりつれなるまゝに明暮ふれ給つゝそとし月を」  
 2 送給ひけるかしまをは今はいよのかみといふむけにいはいけなかりし」  
 3 程はをのつからみたてまつりしかとも八はかりより師につきて」

4 かまくらといふ所に住ける後はすへていつる事も稀にてこよなく」  
 5 けとをくのみもてなされければかけをたにみたてまつらすおきな」  
 6 かりしめにもめてたき御さまを思ひはなちたてまつらて御うしろみ」  
 7 すへきよしをいひをきければ大かたもかたち心はへよにしらすあり」  
 8 難きまてなさせ深くはかなきあそひわさにつけてもゆへ深く」  
 9 あかぬことなくある中にもさうの琴をぞ分て心に入たりける」  
 10 あま君のためにもまことのおやには過てあはれにしひめ」  
 11 君の御事をもはくゝみたてまつるたよりに成て何こともゆた」  
 12 かにさたしのほせければかすかならて過しける都に有 【19才】  
 1 わひたるよろしききは人をはきゝいつるにしたかひてくへ」  
 2 よひとりてつけたてまつりしかはかたほなる人なくめやすし」  
 3 春宮の御かたの太先命婦のおとゝなるおとこにつきてひ」  
 4 たちにくたりけるに男はかなく成て中空なるやらんあり」  
 5 わひたるかちあゑけるをつけたてまつりける少納言のめのとゝ」  
 6 いふかむすめもきたなけなきわかうと弁とてよるひる御あた」  
 7 りさらす心さまあしからぬにとり分て思ひかはし給ける中」  
 8 将の君人しれぬ心のうちのみくるしきにはゝ宮の御なやみ日を」  
 9 経てをもり給へは殿をはしめたてまつりておほしきはき」  
 10 所へに御いのりはしめすほう何くれと事きるゝことのみし」  
 11 けて久しくおとつれ給はすものゝけたちてみえ給へはよか」  
 12 はの何かしの僧都けんある人にてあるをむかへよせて 【19ウ】  
 1 おとろしきことあらはれす日数のみつもればよはくのみ成」  
 2 行給をことしは卅九に成給へは御つゝしみのとしなるにかく」  
 3 ものし給へは覚しなげくこと限なし僧都ちかく参てたい」  
 4 は品をうちあけていみしくたうとくよみ給へるきく人も」

5 涙こほれてたうときに日ころあらはれさりつる御ものゝけを  
 6 ときとてちいさきわらはのあるにうつりていみしくなくに  
 7 あるやうあらんとていよ／＼こゑをあけてすゝをすり給へはい  
 8 とゝなきまさりてつみ有へき身にもあらぬをこの世の  
 9 やみにまよふたにくるしきにいたくなてうし給そたゝ殿にも  
 10 の一こと申さんはかりにやとらうたけになきていひ出たるに  
 11 浅ましくてさらはとくなのり給へとそうつの給へは宮の御せん  
 12 きかせたまへとて 【20才】  
 1 子を思ふ道にまとへるいせ人のしほたれ衣ぬきそきせ  
 2 たる心のやみはたれもとらぬならひなるをいなさげなく  
 3 はしたなめられたてまつられしかはわか身は道ことに成たれと  
 4 おやといふ人にもしられたてまつらてとし月をおくり給をみる  
 5 かいとかなしくてかくも参つる也御ためあしかれとおもひ  
 6 聞えねは今ほまかりなんといひつゝくるを聞給おとゝの御心いへ  
 7 はさら也まかふかたなくかのあへなく成しにこそ世にはなく  
 8 成にけるよのこりとゝまりたる人はたいらかにあるにこそい  
 9 つくにかあるらんと御心みたれて猶こまかにいせまほしけれとい  
 と  
 10 はつかしくかはかりもしられたてまつらんとはおほえねとなてし  
 11 このみに有けりとたにしらせたてまつらんとはかり也とてやみぬ  
 12 れは残りゆかしくまかふへくもなかりつることのさまあはれにも  
 【20ウ】  
 1 ふしきにもおほしけりかくて後は御ゆなとまいりてをこたる  
 2 さまにみえ給へは誰もうれしとおほして今しはしはそうつを  
 3 も猶とゝめたてまつりて御いのりこちたしかのなのりいてし

4 人のためもつみかろうなるへきやうにほけのによほう経など所／＼  
 5 につけてせさせ給日数すくれはよろしく成給て僧都のしる  
 6 しめてたしとさま／＼によるこひ聞えけり中将はかの所へたえす  
 7 ほのめきおとつれ給へとたゝおなしさまにのみあれはかひなく覚  
 8 すめつらか成し佛のみつきせす恋しかりけり四月になりては  
 9 宮の御心ちましてはれ／＼とおこたり給へはたれも御心おちゐてう  
 10 れしとおほしたるに春のはしめより世のさわかしきとして  
 11 さるへき人／＼もあまたうせ給たかきいやしきはかなき数  
 12 のみ増りゆく前高宮齋力もかくれさせ給ぬ入道式部卿の宮も 【21才】  
 1 うせ給などして人の心もしつかならぬに大殿もそこはかとなく  
 2 なやみ給へはいとおそろしくいかならんと覺しさはく左のおとゝもう  
 3 の御ことをこたりてうれしとおほすに又かく殿の御心ちおはしませ  
 は  
 4 うちつゝき御心のひまなしさるへき御なかといひなから露のへた  
 5 てなく思ひかはし給へればひまなくわたり給ひてみ聞え給ふ左大将  
 の  
 6 うへもわたり給中宮出させ給てもろともにあつかひ聞え給いと  
 7 たのもしけなるにもおとゝはうらやましく物のけのつけしらせし  
 8 ことのみ御心にかゝりおほさる木幡のさとはいかにさる事有とも  
 9 しられたてまつらんなとてかく人のかたちとむまれなからおやとい  
 ふ  
 10 人をひとりたに夢のうちにもみすしらぬ身となりけん  
 11 なへてはひとりかけぬるをたにうれへ深きことに今もむかし  
 12 もいひならはしためるをそらよりをちくたりたる物のやうにて

【21ウ】

- 1 世をすくす身の契り心うくこの世におはせぬこそちからなきこと
- 2 ならめおなし世なからかけをたに一め見たてまつらぬ事よいか
- 3 はかりのむくひにて人に似ぬ有さまならんと思ひつゝけて
- 4 しほれかちにてとし月を送り給へときはかりかなしきものに尼
- 5 君の思ひはくゝみてまことならんも限あればかくしも思はぬ事も
- 6 あるを朝夕後のよのいとなみをはさしおきておもひいたらぬ
- 7 ことなく心さしをつくすめるに思ふかひなくおもはれんとおほせは
- 8 さらぬ顔にもてなして明しくらし給よろつねひとゝのほり
- 9 かきりなき御さかりをみためつるにかさまにもてなし聞え
- 10 むとすらんいかにしておとゝにしらせたてまつらんさることあり
- 11 しとはかりは覺しいつらんみためつり給てはおろかに
- 12 おほすましき御さまを宮の御はらにもひめ君はおはせさな 【22オ】
- 1 るにかくとしらせたてまつりなはかりともかすまへたてまつり
- 2 給てんいかなるかよりもかなと思ひめくらせとすへていなか
- 3 しつみし後はみやこにあとたえてさるへきゆかりもなく又うは
- 4 のそらにはいかゝなと思ひわつらいて仏神にもこれのみをねんし
- 5 聞えける宮の御心はへのけしからさりしによりてこそこの御身
- 6 もかくしられたてまつらぬことにも成にしか今とてもいかゝめさ
- 7 ましとこそ思ひ聞え給はめと思ふにはさし出ましようひたま
- 8 はんもいたはしくとにかくになけかしき御身の有さま也中将
- 9 の君月日の過るにしたかひて有しさまかたちはわするゝ世なく心
- 10 にかゝりておほさるれとはりなきさはりおほのみにてえわたり給は

- 11 とのは大かたもさのみかくよをしりてもことしけき心ちするをいのち
- 12 なかゝらぬさうにてけにあすもしらすのみ覚えなからつれなく

【22ウ】

- 1 とし月を過さん程に心になはぬ物ならはまたぬいのちのちめん
  - 2 きはくやしうおもふとも何のかひかあらんかくのみ目をへてなや
  - 3 ましきにつけてものとかに成てほい深き事をもしんとおほし
  - 4 成て左のおとゝをよひたてまつりてしか／＼なん思ひ侍よろつを
  - 5 かきあつめてもまきれかちにてのみ過し侍ても心にしたかはぬ世の
  - 6 ならいとしり難くとし比ほいふかきことあればさてもなからへん
  - 7 程はたれ／＼の事もおほつかなからすきゝかはしたてまつるへき
  - 8 同じ世なれば何かけちめありてもおほすへきしたいのまゝなれば
  - 9 世をしり給て春宮の御事なともうしろみためつり給へ右
  - 10 大臣いまたとしなともわかくらみあるへきならず又したいを
  - 11 たかふへきならぬはこのつきをこそは覺しあて給はめとき
  - 12 こえさせ給へはと思ひのほかなる事にも侍かな春宮の御位に
- 【23オ】
- 1 つかせ給はんまては覺しねんせさせ給はすやあるへきいとはかに
  - 2 思したゝせ給へることになんしらぬよのならひはたれともおなし
  - 3 ことにこそは猶しはしはなとかたく申給へと思ひたち給める事
  - 4 は時日をかへぬ御心にてひし／＼と御たまりて二位中将を御つかひ
  - 5 にてうちへもことよろし給へはうへもおとろかせ給てなへて
  - 6 世のさはかしきにつけてかゝることあればおほしなけきたるされ
  - 7 とあるへきしたひたかはてさ大臣よろつをしり給はへすれはもと
  - 8 より世おほえをはする人にてわたし給つほいふるき御ことを御み

9 かとよりはしめたてまつりて中宮春宮きんたちもいみしくとめ  
10 申給へは御心ちのくるしさもまさり給はゝその時こそとてをと  
11 なく成ぬるをたれも／＼うれしと覺されけるれいのとしよりも  
12 あつきたへかたきとしにていとゝくるしうし給をいかならんと

【23ウ】

1 おほしなけきて寺／＼に願たて御いのりみすほう所／＼に  
2 いよ／＼はしめそへさせ給ふおとこ君たちもさしつとい内春宮  
3 よりも日ゝに御つかひあれはかゝる御やまひの折しもそ御光の  
4 程はあらはれける今の関白殿にはひきかへはなやかに成まさり  
5 給かんたちめ殿上人御よろこひわれも／＼とまいりつとひて前  
6 右大臣の君たちなと宰相中将左衛門督うちつゝき参り給御  
7 たひめん何かとひまなきとのゝうち也七月に成てすこし涼  
8 しき夕風まちえては大とのゝ御心ちかろく成給へはみなうれ  
9 しくおほす中将とのゝ御よろこひなにくれと打つゝきひまなる  
10 りつることゝも過て廿日よひに忍てかしこに思ひたち給ふうす  
11 色のなをしに所せきまでたきしめていとゝいたう心けさうし  
12 てえんなる程の夕すゝみにおはしてせうそこ聞え給へは【24オ】  
1 うはのそらなる心ちしなからけとをからぬかたひきつくるひて  
2 入たてまつるさし入給より匂みちてけはひことにはつかしけにうち  
3 こはつくりておはすれは宰相とてみやこ人なるかなれたるけしき  
4 くちをしからぬをいたしてあひしらせたてまつる聞えそめても  
5 とし頃に成にたる心ちするをむけにうと／＼しくもてなさせ給  
6 かな御みつからのとみゆる一ふてもみせさせ給はすさまじけなる  
御

7 もてなしなれは我はつかしくはしたなき心ちすれはかくまいり  
8 くるもそゝろはしけれと心のしるへにいさなはれてなんこよひたに  
9 人つてならて申さんことはかりをも聞給へかしのと給へはいとあま  
り

【24ウ】

1 心ちし侍てなと聞<sup>ゆ</sup>るけはひゆへありよしつきたるおとこ君の  
2 御けはひそ又かきりなくけたかく心はつかしけなるやとかくきこへ  
3 返すへきことのはもおほえて入てしか／＼とあま君に聞れはかくま  
て  
4 おほしの給へきまでのきはにもおほえ侍らすあやしきあなか  
5 のふせ屋におひいてたるみたてなきをいかにおほしまかへさせ給て  
6 なをさりの御すさみにもかくまで立よらせ給へるならん道も  
7 はるけく侍をなと聞え給猶こゝ許にいさり出させ給へあまりおほ  
8 く思ひあつむることをは人伝にはいかゝ聞えやるへきかくきこえつた  
へ  
9 給人もくるしからんを物こしにて申さんことはかりをきゝ給はんこと  
は何  
10 はかりのことか侍らんと給へは入て聞えむとするに廿日よひなれは  
月  
11 心もとなきにいとくらくなにのあやめもみえず宰相か入たるしりに  
12 つきてやをらつゝきておはするも知すひめ君はよのけしき【25オ】  
むつかしく覺して丁のうちに入ふし給へれば弁少将なとよりふし



2 ていとくらきに屏風のうちにつたひ入て聞給へはあなくらいつく」  
 3 におほしますすとてさくるにひるのおましにはおほせぬは丁の」  
 4 うちに入ての給へることゝも聞えて今少し出させ給へかし御い」  
 5 らへなどはなくともおほせられんことはりをきかせ給はんは何かくるし」  
 6 うとそゝのかすめれはあまうへに聞えよこゝには聞へきこともなしと」  
 7 のたまふ声けはひのらうたくきかまほしきはとてあまうへかたへと」  
 8 覚しくて出るにちかひて丁のかたひらひきあけて入給てかたはらに」  
 9 そひふし給に思ひよらぬ程のことなれは浅ましうおそろしとも」  
 10 おろかなるに君は思ひかけすみそめてしよりしつ心なきよしを」  
 11 いひつゝけ給へと何のかひ有へきけしきにもあらずたゝなきにのみなき」  
 12 てあせと涙にしつみ入て人をたにえよひ給はすきえいりたる」【25ウ】  
 1 やうにみゆる物からやはらかにたを／＼といはんかたなくらうたけ也宰相」  
 2 は物聞えむとて出たれば人もおほせず出給ひぬるかといてゝみれと」  
 3 さりけもなければ入てきけは忍ひやかに物の給けしきするにあやし」  
 4 て丁のうちをさくりよりたるにくゆりかゝる御匂にあさましくて今」  
 5 すこしちかくさくりよりたるにそひふし給へりあなうたてかくま」  
 6 てゆくりなくあは／＼しき御有様はいとゝけしからぬ御事かなとひき」  
 7 ゆるかしきこゆれはうちわらひ給て何かいたくけとをくはしたなめ」  
 8 給に思ひわひて心にもあらずまよひ参りつる仏の御しるへにやとし

た」  
 9 りかほにの給はすへきかたなくて少将をこゝもとにとよひて御かた」  
 10 はらにをきて我はあまうへにつけたてまつらんと思ひていつれはい」  
 11 かなるせきもりをすへ給ともそれにしもきはらしとの給あまうへ」  
 12 はさぬきといふものとうちさしめきていふことをきけはこのお」【26オ】  
 1 はしたる人のこと也御ともなる人にさるにてもたれにて物し給ふそ」  
 2 いかなる人ともしりたてまつらてはいかてかくまでもとひければかねて」  
 3 たつぬることあらはいふへきよしの給てければかく／＼とのゝ中納言」  
 4 殿となん申すとこまかにいひけるを扱は御せうとにてそおはすなれ」  
 5 いかなるたよりもかなとのみ思ひわたりつるをうれしきことにもある」  
 6 かなたとふたりいひあはせ給ふに宰相入きてかゝることこそ侍れと」  
 7 あはたゝしけにいへはめもくちもひとつになる心ちしてたれとしら」  
 8 さりつるより浅ましうかゝる御中ときゝつけつればひかこともそ出」  
 9 くと思へはいそきいたしたてまつらんかれもおほしよらぬ事なれは」  
 10 さたかにきゝ給なはおほしかけしといひてうちある人にはせなと」  
 11 すへきことにもあらずこまかにみつからこそは聞えめさはかりはつかし」  
 12 けなめる御けしきはつゝましけれとこの君の御ゆかりときくに」【26ウ】  
 1 あはれにうれしくて何事もおほえず丁のそはにいさり出てこま」

2 かに聞えしらすへきこと侍て人つてなどにはこと浅くやとてなん  
 3 といひ出たれはたゝかく入ふしたるをいたさむのためなりと覺す  
 4 にまめ／＼しきやうに聞れば何事にかあらんとてはしのかたに  
 5 みしろきながら御てをとらへてゆるし給はずいまたそうそくな  
 6 とはとかてそひふし給へりとみゆれはいとうれしくてむかしの事  
 7 ともをはしめよりくはしういひつゝけてとしころいかなるたよりに  
 8 とのにもしらせたてまつらんと思ひなけくにかゝる御なかにきゝな  
 9 し  
 9 聞えぬるはしかるへき仏神の御しるへにやといと／＼うれしくたの  
 10 む  
 10 物とてはかゝる山かつの行末みしき身ひとつをたのもしきかけ  
 11 にて過させ給御身のはていかならんとのみ朝夕みたてまつりなけき  
 侍  
 12 つるに今はあはれをもかけ聞えさせ給てんとうれしく心やすくも成ぬ  
 る【27才】  
 1 かなとのにも此よしを伝へ申させ給へとこま／＼といひつゝけたるに  
 思ひ  
 2 わきたるかたなく御むねもさはきてさは有ましき中にこそと  
 3 思ふにまつ涙はさきたちてとはかり物もいはれ給はずものゝけの  
 4 しらせし事も今そ思ひあはせられ給おほえなくみそめたて  
 5 まつりし日よりいまにかた時心にはなるゝ世なく歎きしをあら  
 6 ぬすちに聞なしたてまつるはまついみしくむねいたき心ち  
 7 すれは今一きは哀にも思きこゆへきことにこそ大殿の君たち  
 8 をみるにつけてもいとうらやましくいかなる人いもうとなといひて  
 9 はかなき事をもいひあはせ打かたらひなとすらんとのみ思ひわたり

10 つるに今よりはわくかたなくたのみきこえさすへきあいおほされは  
 う  
 11 れしかるへきをたゝさはかり思ひしみぬも心をなこりなく引かへ  
 12 てまことにけとをくなし聞えむそ身のうれくなる猶いかゝし【27ウ】  
 1 侍らんとてなき給かけにさそおほすらんとあはれにて聞人も涙  
 2 をゝとしけり月も出ぬ光さし入たるに今すこしいて給ふてあやし  
 3 くしかましましき御せうとの顔も御らんししかしとてひ  
 4 きうこかし給へとあやしかりつる心のまとひにみしろき給はね  
 5 はさしよりてさはかりうとましき物におほされたりつれと覺し  
 6 はつましき事に聞なし侍ぬる深きみちと聞なしたてまつり  
 7 つるはうれしけれと日頃の心を引かへてあらぬさまにおもひ  
 8 なし聞えむのみそあはれに心ほそかりぬへきとて御手をとらへ  
 9 て御かほにあてゝなき給へるけしきたためらひやらぬをきゝ給ふ  
 10 心ちはおそろしかりつる名残に物いひ出へき心ちもせず  
 11 くるしけれとかゝることく聞なしたるうれしき今はかくけちかき  
 12 ことなどはあるましきよと思ふに心もまつしつまりたまへり御  
 【28才】  
 1 手をひき給へはこれはかりをたにひんなしとおほしたるもことほり  
 2 なるへけれと今よりこそあらめたゝ今はゆるさせ給へこれほと  
 3 のけちかさもさるへき契りにてあるを哀とたにの給へ  
 4 今ほうとくおほすましきにあまり物おほししらぬはくち  
 5 をしうとの給はかくけちかきはわひしきはかゝらてもの給は  
 6 せん事はともかくもとほのかにの給へるからうたくなつかしきは猶  
 7 しのひかたくなとて今しはしたしかにしられて大殿のきんた

8 ちなど思はせたらましかはありはしめなんにはちからなくいふ  
 9 かひなくてこそはあらめなどおほすせいとうたてある御こゝろ  
 10 なるやあやにくなるみしか夜は猶秋なからとりあへず明るけしき  
 11 なれはむけに明はてぬさきにと人／＼のかしきこゆれはむかし  
 12 おほゆる秋の空にたゞよひけんかへるさよりも猶たのみなき心ちし  
 【28ウ】  
 1 て中空なる物思ひ也御ともの人もこはすくりなとすればさはま  
 2 かり出ん今はつねに参こんをいとひ給はて哀なる物にあひおほ  
 3 せよとの給へはうちうなつきたるけしきのはしめはいみしうおそろ  
 4 しようとましけに思ひ入給へるに引かへなつかしけなるもてな  
 5 しのいとしらすあはれなるに猶しのひかたき心ちして  
 6 逢ことははるけき道ときくからにいとくるしき妹背山かな  
 7 みちの空にてもきえぬへくとの給へといらへんかたなければ物もの  
 8 給はず尼うへにもさま／＼いひをきて出給も夢の心ちしてみち  
 9 すからありつる余波の身にそひたるは思ひはなれん事かたくやと  
 10 我なから心のはても知かたき心ちするそうたてあるましきこ  
 11 とゝ思ひ返され給とのにおはしつきたれはいまたみかうしも  
 12 まいらさりける我御かたへおはして手つからみかうしあけうちふし  
 【29オ】  
 1 給ても雲井はるかに思ひたゝなんことあやなくなけかくて  
 2 さま／＼思ひみたれ給ふたちと聞しかはこよなくけたかくみえ  
 3 しはむへなりけりかくきゝて思ひあはするにけにとの御かたさま  
 4 もかよひたりしと思ひ出らるゝわたしには出給て後さしつとひて

5 此方もいひあへり思ひかけす入おはしてそひふし給ひたりつる程  
 6 の浅ましきにさまことに引かへたりし御ことをいかに思すらんと  
 7 いとおしくとのしり給はん事のうれしさのみ方もわすれてこ  
 8 の事なからましはきとたよりあらざらましをしかるへき御事  
 9 になといひてさもきよらかにめてたくみえ給し御さまかたかな  
 10 かゝらぬ御あはひならましかはさしならへたてまつらんにいつかた  
 も  
 11 おとらぬ程のあはひにてそあらましなとさためあひたるを  
 12 君はねたるやうにてつく／＼と聞ふし給へり心うくうとましと  
 【29ウ】  
 1 のみ思ひまとはれつるにさるへきこと聞なし給てのちは哀に  
 2 なつかしくおほし給へと心さはきのなこりはなをなやまして日  
 3 たかくなれとおきもあかり給はず御てうつ御かゆなどそゝのかし  
 4 たてまつれと何とやらんつゝましき心ちしてれいにかはりたる  
 5 御けしきをうつくしと誰も見たてまつる中納言君はむねに  
 6 てをきたる心ちして日たかくなるまでなかめふし給へれば  
 7 れいならぬ御あさかへりに名残さへものうけにおほしためる  
 8 はいかはかりのことならんとわかき女はうのかとちつきしろひけ  
 り  
 9 ひるつかたとの御かたへまいり給へればいつくよりもし給へるそ  
 と  
 10 てけうそくにおしかゝりてしくわんのかくもんしたまへる程にて  
 11 御まへものとかなれはいとよきおりと思ひて山里なる所へまかりて  
 12 けさなんまかりかへり待るとてちかくまいり給ていと思ひ外の  
 【30オ】

- 1 めつらかなる事をこそきゝいたし侍つれと申給へはうち多みてなに
- 2 ことにかとの給へはそのものゝけのつけしらせ奉りし事さたかにき  
ゝ
- 3 出でたいめんなどして侍りつると申給へはいつこにかやうにて有け  
る
- 4 にかとし月おほつかなくのみおほえてすくしつれともたつぬへき便
- 5 もなくてなげきなからおほくのとしつもりぬるにいかにしてもとめ
- 6 出給へるにかとのたまへはこひたちのかみかめにて侍るものはかのう  
み
- 7 おきたてまつり申人のあねにて侍けるかいさなひてひたちにくたり
- 8 て国にてうみおきてはかなく成にけるをやかておやさまにはくゝ
- 9 み奉りて過しけるほどにかみうせてのちあまになりてのほり
- 10 てこわたといふ所にすみ侍りけるを思ひの外にみむるとにまかりし
- 11 みちにてほのかにのそきて侍しかはめおとろきておほえ侍しかはと
- 12 かくたつねきゝて侍れはかゝる事と聞なしてかれもいみしうよろこ  
ひ
- 【30ウ】
- 1 侍りてと有けるまゝに申給へはともあれかくもあれたいらかに世に  
有
- 2 ときくうれしきことにも有かな人の身に女このあるなんおもたゝ
- 3 しくたかきい多ともなるものにてあなるをこゝにはそのことかけてく  
ち
- 4 をしき心ちする女御きさきと出入ひゝきをなすに御身したしき
- 5 いうそくにてなへこのきはならていていりたるこそおのこの身に光
- 6 にて有をかつはぬしたちのためにもむけにさう／＼しかりつるに
- 7 みるめことなくは内へもまいらせてんなどてすてに雲のうへまでも
- 8 思ひをよひ給てかきりなくうれしとおほしたり宮の御心さまの
- 9 さばかりことことはおもふやうにおはするかそのすちの事はかりは  
え
- 10 おさめ給はずかつはそれゆへこそえたつねえさりし事なれば
- 11 いまでもめさましとやおほさんさすかさる人もたぬはさう／＼し
- 12 とてとりむすめしてかしつかるめれといかなるわかふかゝらぬすちを  
いさ
- 【31オ】
- 1 かひ給なるいかさまにも今しはしはひろうなくてとの給へはしか
- 2 侍りこゝにたつねいてたるといふ事もはゝかりありぬへくなど申給
- 3 まつふみつたへむとていみしく哀にうれしとおほしたり中
- 4 納言は宮の御かたにまいり給ついでにひんかしのたいへおはしてさ  
し
- 5 のそき給へはわかきこたちとてまりつき給てみたりかはしく木丁な
- 6 とさまよひたるにこはつくり給へはおとろきてちりほいたるものと  
も
- 7 とりやりなとしてさはかしうみゆはしにつる居給へはいたくひき
- 8 いらなともせてをみなへしの一へはかまのいろあひもはかなやかに  
も
- 9 てなしけしきもおほとかならずむつまじかるへくの給はせしかは人し  
れ
- 10 すたのみ思ひきこゆれとみえさせ給こともなければうらめしくなんと  
て
- 11 かゝやかしからすまことのせうとにたにはつかしけにむかひにくき事  
に
- 12 思ひたるこそよの常のことなるに是はつゝましき所なくいひ出給へ

る」【31ウ】

- 1 をかしくてなどみえぬそとおとろかし給はぬうらめしきはこれ」
- 2 にこそ申へかりつれへたてなくうとからぬ物にたにせさせ給は」
- 3 御めかれなくなん御らんせられ侍へきとの給へはつねにわたり給」
- 4 はうれしくて御心にかかひ聞えしなと心うつくしけるの給て」
- 5 さすかけしきはかり木丁引よせなからさなからあらはにみえてかみを
- 6 ふりかけつゝしりめにかけていとうけしきはみ心けさりした」<sup>ウカ</sup>
- 7 るさま思ひよらさらん人も心つきぬへしかゝるにもまつ思ひくらふる
- 8 るかたつかた思ひ出られてこよなくも有しはやと思ひいつる心のう
- 9 ちそはつかしきや心にしたかはんとらはをのゝえつくる程ならんも
- 10 いとはせ給はずやあらんなどいひかはし給けにかはかり及かたから」
- 11 ぬ事をよのつねの人ならば今までかくうとくてしもあらさら」
- 12 ましまことのほらから成ともこのけしきならんをよそにては」【32オ】
- 1 ありなんや我なからまめ／＼しう思ひしられおほろけに心深くお
- 2 ほえさらんことをすさみにても○めならさらん事は人のためもくる<sup>まカ</sup>
- 3 しなとのみ思ひすくし給へはこれも思ひよらすかしこまりをき」
- 4 たるさまにてのみ過し給を猶くちをしと思ひ給らんかしその」
- 5 日もとかくまきはしうて暮ぬ又の日かしこへ文つかはさんとて御つし
- 6 あけさせてえならぬかみともえり出て薄紫のからのしきしに」
- 7 若草のねもみるましき物ゆへにいかにか結ぶの神もうらめし」
- 8 人の結はんなど心とゝめてかき給へりとのゝ御かたにも文や侍へきと申」

9 給へはしろき色紙のすくよかなるに御てはいと上すめきて」

- 10 たねまきてうへしかきねのあれしより涙露けきとこなつ」
  - 11 の花おほつかなしとのみ思ひなやみつるとし月のへたてはさる物に」
  - 12 ていまたたいめん心の心もとなくなどこまかにかゝせ給へりまちとり」
- 【32ウ】
- 1 見給心ちいみしう哀也大かたよそなから聞わたり聞えつるたにその
  - 2 あたりときくはなつかしうのみおほゆるをかく有しとしられ」
  - 3 たてまつりて文などをさたかにみるは夢の心ちしてめつらしう」
  - 4 うれしきにもかなし世なからはかくをのつからめくりあふ世も<sup>おカ</sup>
  - 5 ありぬへきものなるをななき世のわかれのみそけにいふかひな
  - 6 きならい成けりと過にしかたのこともとりかへ○今さらあはれに<sup>しカ</sup>
  - 7 かなしくてなみたこほれ給けしきけにらうたくなまめかし」
  - 8 う御くしのうちなひきたる程いとめてたきをみたてまつるにも」
  - 9 おやの御心ちにみつたてまつり給てはおろかにおほされし」
  - 10 といひあへり御返きこえさせ給へとて御硯とりまかなひてかゝせたてまつる」
  - 11 荒にけるかきほもしらてとしふれはしほれかちなるやまとなて」
  - 12 しこはなたのかみにほのかにかき給へり今一の御かへりは聞え」
- 【33オ】
- 1 にくゝおほしたれはしことほりにていたくせめきこえずしるきあや<sup>カ</sup>
  - 2 のうちきおり物のほそなるそへてかつけ給御返心もとなく」
  - 3 待おはしけるにかひなければいとくちをし殿はまちみ給に手」
  - 4 などひなひてやとおほしけるにいとおかしきにゆへふかくせん」
  - 5 たひの后におはしけるとうくわてんの御手によくかよひ」

6 たれは御めおとろきて御らんすまき多の箱のちいさきをそへ  
7 てたてまつられたりあけてみ給へは御うふきぬとみえてたも  
8 とに物かゝれたる御らんすれはむかしのてにて  
9 たねまきし人も尋ぬひめこ松おひ行末を誰かみるへき  
10 たてさしぬらしたらんみる心ちしてあはれにかなしなどしもの  
11 ちたへにけんあらはあふせをと思ひつるに消にし程の心のうちお  
12 ほしやられて御めをしのこひつゝもとのことく箱に入れてはしし  
【33ウ】  
1 御許にをき給たれはこゝにはつゝましとて中納言にあつけ  
2 聞え給ふいつしかゆかしき御心ちはすゝみ給へと世のわつらはし  
3 さにする／＼ともえみたてまつり給はすいかにせましとおもひみ  
4 たれ給ほとに八月にもなりぬ兵部卿宮かしつき給ひし  
5 御むすめ春宮に参たまふへしとて御てうと何くれといそき給  
6 に聞え給し人ゝくちをしう思ひあひ給へり大とのゝ権中納言は  
7 いかにしてみ給けんほのかにみし御佛を思ひいつるに小宰  
8 相かもとへせめわたり給へとかひなくて御参ちかく聞ゆれ  
9 はいみしくなきて日ゝにせめわたり給あさてはかりに成て  
10 わすれなんと思ふ心にしたかはて落るなみたをいかさま  
11 にせん数ならぬ身にしたかふ物ならはかくは侍へしや露のあ  
12 はれをたにかけさせ給はゝしはしの命もかけてとゝめ侍なんと  
【34オ】  
1 おほかれと御いそきの程は宮もうへもこなたにおはしてさはかし  
2 ければ御らんせさせすまめやかにくちをしと思ひありき給かく  
3 てきしきことにて参給ぬれば御つほねは梅つほ也御かた  
4 ちありさまかしつかれたる人とみえておかしけにおはすれば御お

5 ほえをろかならずめやすし秋の中納言もいひわたり給し  
6 を雲井に聞なして心やましく御心さし浅からぬと聞たまへは  
7 いとゝたゝにはおほえささりけりはゝみやいとおそろしかりし御な  
8 やみの後はつねになやみかちのみにともすればあつしくおはず  
9 れととりたてわつらはしうみえ給はねはうちたゆみてのみ過し  
10 給にこのほとゝ成てこよなくくるしうし給ておさ／＼おきもあかり  
11 給はねはおほしさはきて御祈かた／＼つくさせ給春の頃より世中  
12 さはかしくさるへき人／＼あまたうせ給ひなとして御心ちともゝ  
〔校正〕  
1 丁オ 四の宮カ 女の君―石女の君  
2 行 ゆへ―石ゆゑ  
3 行 有―石あり  
4 行 とのゝ―石くのゝ  
5 行 こゝろくるし〇きと―石こゝろくるしきと  
6 行 そこにも―射そこまも  
7 行 かくれか〇もや―石かくれかもや  
8 行 あとた〇にし―石あとたえにし  
9 行 はしたなめられはまさりて―石はしたなめられはま  
10 行 いて―石いて  
11 行 南―射・石南  
12 行 かためと―石かためとも  
13 行 たちまつり―石たてまつり  
14 行 たりて



10行 処—石所

12行 をしやられて—石おしやられて

12丁オ

1行 おほきやかなるカ—石おほきやかなる

2行 しろく—石しろく

6行 ほつましけならず—石ほつましけならず

7行 うちわはらひ—射・石うちわらひ

9行 はへて—石はえて

12丁オ

12行 12丁ウ 1行 そちこはつくり—射うちこはつくり

石うちこはつくり声作

12丁ウ

2行 なをし—石なほし

3行 なをし—石なほし

4行 処—石所

5行 むかい—石むかひ

7行 聞—石聞

13丁オ

4行 したと—石したと

7行 あらぬは—石あらぬは

8行 なを—石なほ

8 9行 思ふやうなる世—石思ふやうなら世

13丁ウ

1行 心めときめ—石心ときめき

山カ 玉の井の水—石玉の井の水

11行 うちの三室—石宇治うちの三室みむろ

14丁オ

1行 こわたといふ処—石こはたといふ所

3行 くらく—石く

5行 聞—射・石聞

10行 とをく—石とほく

12行 ゆへ有間て—石ゆゑありて

うへわたし—石うゑわたし

14丁ウ

3行 花ある—石花ちる

8行 をとなしき—石おとなしき

10行 かくれて—石かくれこと

7行 こゝらみし—石こゝらみし

8行 をよふ—石およふ

12行 をろし—石おろし

3行 はき—石はき

6行 とひ給へは—石とひ給へり

7行 ひたちのかみの殿のこけ—石ひたちのかう殿のこけ後家

8行 給ふ—石給ふ

10 11行 いひつゝけ—れは—石いひつゝけく殿

はカさかりの—石さはかりの

1行 あま—石あま海士

3行 やり—石やり殿

4行 色—石いろ

旅—石たひ

5行 いゑち—石いへち

6行 まいらせ—石まぬらせ

8行 いと—石いとも

15丁ウ

3行 はき—石はき脛中殿訓

6行 とひ給へは—石とひ給へり

7行 ひたちのかみの殿のこけ—石ひたちのかう殿のこけ後家

8行 給ふ—石給ふ

10 11行 いひつゝけ—れは—石いひつゝけく殿

はカさかりの—石さはかりの

1行 あま—石あま海士

3行 やり—石やり殿

4行 色—石いろ

旅—石たひ

5行 いゑち—石いへち

6行 まいらせ—石まぬらせ

8行 いと—石いとも



16 丁ウ  
9 行 明つらん—石明つらん<sup>あけ</sup>  
1 行 て—石<sup>手</sup>

17 丁オ  
6 行 なまめかしさ—石なまめかしさ<sup>き敷</sup>  
5 行 まいり—石まゐり

17 丁ウ  
6 行 おほしきはわきて—石おほしきわきて  
8 行 立さはき—石立さわき  
11 行 まいりさはく—石まゐりさわく  
2 行 恋—石こひ  
4 行 聞る—石聞る<sup>ゆる</sup>

4 行 聞る—石聞る<sup>ゆる</sup>  
4 行 5 行 たしかに—石おしかに<sup>た</sup>  
6 行 衛—石行へ

18 丁オ  
8 行 みえね<sup>はカ</sup>—石みえねは  
をきたれは—石おきたれは  
4 行 くちをしけれ—石くちおしけれ  
10 行 身一—石身一

18 丁ウ  
11 行 12 行 をとつれ—石おとつれ  
2 行 をもく—石おもく  
7 行 様—石さま  
10 行 こわた—石こはた

19 丁オ  
3 行 をのつから—石おのつから  
5 行 とをく—石とほく  
8 行 ゆへ—石ゆへ<sup>つげカ</sup>

11 行 たよりに成て—石たよりに成て

19 丁ウ  
1 行 何こと—石何事  
わひたる—石侘たる

3 行 太先—石太先<sup>夫カ</sup>  
5 行 ちあゑける—石ちあれける  
9 行 さはき—石さわき  
10 行 すほう—石すほう<sup>修法</sup>

20 丁ウ  
2 行 をとらぬ—石おとらぬ  
8 行 のこり—石のこり<sup>残</sup>  
1 行 まいりてをこたる—石まゐりておこたる  
5 行 給—石給<sup>たま</sup>

21 丁オ  
12 行 日数—石日数<sup>ひかず</sup>  
高宮—石高宮<sup>齋カ</sup>  
入道式部卿の宮—石入道式部卿宮  
2 行 さはく—石さわく

3 行 をこたり—石おこたり  
8 行 かゝり—石かゝり  
いかにさる事—石いかにさる事  
12 行 をちくたり—石おちくたり

22 丁オ  
7 行 かひなく—石かひなくや  
あとたえ—石あらたえ

22 丁ウ  
7 行 ましうひ—石ましらひ  
8 行 有さま—石ありさま  
10 行 はりなき—射はりなき 石わりなき<sup>わカ</sup>  
さはりおほのみにて—石さはりのみにて<sup>おほ本ノマ、</sup>

23丁オ 6行 ならない―石ならひ  
23丁ウ 4行 御<sup>さ</sup>たまりて―石きたまりて

7行 したひ―石したい  
左 大臣―石さ大臣

よろつをしり―石よろつをくり

8行 世<sup>の</sup>おほえ―石世おほえ  
ほいふるき―石ほひふかき

10行 をと―石おと

24丁オ 2行 おとこきみ―石をとこ君

3行 光―石ひかり

5行 まいり―石まあり

7行 たひめん―石たいめん

9 10行 ひまなるり―石ひまかなり

10行 廿日よひ―石廿日よひ

12行 聞え給へは―石聞え給へは

1行 けとをからぬ―石けとほからぬ

4行 あひしらせ―石あひしらせ

6行 一ふて―石いふて

7行 まいり―石まあり

10行 給ふて―石給うて

11行 ままにも―射まをにも 石まをにもまほにも

25丁オ 1行 聞る―石聞る

おとこ君―石をとこ君

2行 きこへ―石きこえ

5行 おひいて―石おいらて

25丁ウ 6行 なをさり―石なほさり  
10行 廿日よひ―石廿日よひ  
3行 おはせぬは―石おはせぬは

5行 などは―石ならば

何か―石何かは

8行 かたひら―石かたひと

7行 けとをく―石けとほく

8行 思ひわひて―石思ひわひて

9行 の給は―石の給へ

10行 をきて―石おきて

12行 さしめき―石さしめき

5 6行 あらぬすちに―射あらぬすちに

12行 うれく―石うれへ

28丁オ 1行 給―石給

1 2行 涙をとし―石涙をおとし

2行 給ふ―石給う

7行 おもひ―石思ひ

11行 かゝることく―石かゝることく

28丁ウ 1行 ことはり―石ことわり

5行 かゝつて―石かゝりて

1行 こはすくり―射・石こはすくり

29丁オ 2行 あひ―石あい

5行 いとしらす―石いひしらす

7 8行 の給はず―石のなはず  
8行 いひをきて―石いひおきて

みち―石道

29  
丁ウ

11行 みかうし―射心かうし  
1行 思ひたゝなん―石思ひたえなん  
なげかしくて―射なげしくて

4行 こわた―石こはた

7行 いとおしく―石いとほしく

30  
丁オ

1行 哀―石あはれ

2行 心さはき―石心さわき

6行 てをきたる―石ておきたる

8行 をのかとち―石おのかとち

10行 程―石ほど

12行 まいり―石まあり

30  
丁ウ

2行 その―石その

7行 たてまつり申人―石たてまつり申人

10行 こわた―石こはた

みむろと―石みむろと

31  
丁オ

1行 有―石あり

3行 いゑ―石いへ

5行 おのこ―石をのこ

光―石ひかり

7行 まいらせ―石まゐらせ

なとて―石なとて

8行 をよび―石および

10行 おさめ―石をさめ

ゆへ―石ゆゑ

11行 いま―射いて

3行 ふみつたへむ―石ふみはつたへん

31  
丁ウ

哀―石あはれ

4行 まいり―石まあり

7行 つる居―石つい居

6行 心けさり―石心けさう

32  
丁オ

給―石給

11行 あら―射ある

32  
丁ウ

2行 ○めならさらん―射・石めならさらん

3行 をき―石おき

7行 ゆへ―石ゆゑ

10行 うへし―石うゑし

33  
丁オ

4行 かなし世―石おなし世

をのつから―石おのつから

6行 ならい―石ならひ

とりかへ―射とりかへ

しほれ―石しをれ

おほしたれはし―石おほしたれし

33  
丁ウ

ことほり―石ことわり

いたく―石いたくも

ほそなる―石ほそなか

おかしき―石をかしき

ゆへ―石ゆゑ

4 5行 せんたひの後―石せんさいの後

9行 誰―石たれ

10行 たて―石ふて

11行 たへにけん―石たえにけん

程―石ほと

12行 をしのこひ―石おしのこひ

34丁オ 3行 する／＼と―射する／＼と 石する<sup>か</sup>／＼と

おもひ―石思ひ

8行 もと―石許

34丁ウ 1 2行 さはかしければ―石さわかしければ

3 4行 かたち―射<sup>たか</sup>か

5行 をろかならず―石おろかならず

11行 さはきて―石さわきて

12行 さはかしく―石さわかしく

給ひ―石なひ

〈付記〉

一 本稿を成すにあたり、本居宣長記念館、射和文庫、石水博物館には、貴重な資料の閲覧・掲載許可を賜りました。また、本居宣長記念館館長吉田悦之氏には、懇切丁寧な御教示をいただき、岡本勝氏著『近世文学論叢』（おうふう、二〇〇九年）に記載された石水博物館蔵本を御紹介いただくなど、御高配を頂戴しました。ここに記して、厚く御礼申し上げます。

一 校本の作成に際しては、科学研究費補助金基盤研究（C）・研

究課題番号 22500236・「文字列データ解析システムの構築と平安朝文学の伝本と表現に関する総合的研究」（研究代表者・福田智子氏、研究機関・同志社大学、平成二十二～二十四年度）において、坂田桂一氏（同志社大学文学研究科博士後期課程）が作成された「校本作成支援ツール」の提供を受けました。ここに記して、深謝の意を表します。

一 本稿は、平成二十三年度科学研究費助成事業若手研究（B）・研究課題番号 23720111・『石清水物語』第三系統諸伝本に関する本文研究及び校本作成」による研究成果の一部である。

（みやざき ゆうこ・本学専門研究員）